私の履歴書

86年の人生を、時系列にまとめて発信します。

小学生になるまでは、今は呉市に編入されていますが、大崎下島の大浜に住んでいました。ピカドンにやられたという小母さんのところへ、牛乳を運んだ事や、人を見たら「昭和15年2

月２日生れ、乃美友治郎です」と言って歩く、調子者だったことや、学校へ兄の傘をも持って行って、先生に褒められたことなどを、覚えています。

2025・12・27

　前の原稿を書きましたら、急に記憶がよみがえり、様々な事を思い出しました。列挙しま

す。　父親と一緒に磯釣りに行ったのですが、帰る時は満潮で海の中を歩いた事。空襲があり、近所の人と高台のお寺に避難したこと。婦人会と称して、母親たちが竹槍の訓練をしたこと。水陸両用車が砂浜に上陸したこと。兄の話だと８月６日には「ピカッ」と光ったとのことですが、私の記憶にはありませ

ん。

2026・1・1

昭和20年12月、大浜から漁船に家財道具を積んで、安芸津町三津を目指しました。船は海面すれすれで、大風が吹けば、転覆するのではないかと思わせるほど、危ない状況でした。それでも何とか目的地に到着。そこから大八車に荷物を積んで、蚊無へ向かいました。私は幼児なので何もしていませんが、父母は大変だったでしょう。何故、蚊無かと言うと、父親が職業軍人で敗戦とともに退役?し

ていたのですが、生活を維持するために、開拓団に参加していました。その場所が蚊無だったのです。ここから貧乏生活が始まります。

2026・1・5

昭和21年の春、小学生になりました。担任は女性の先生でした。3年生までお世話になりました。遠足の時「派手な弁当」は持ってこない様にと注意されたのですが、言った本人が巻きずしをもってきていたのです。(お母さんが作ったのでしょう)。それで、大変恐縮さ

れて、皆に食べて頂戴と言われました。私はと言えば、相変わらず調子者で、」よく言えば積極性を発揮していました。学芸会の演奏で「大太鼓をやりたい」と言って困らせたりしていました。ホームルームで皆で、菓子を持ち寄りました。私のはなかなかの量でしたが、分けて貰った物が少なかったので文句を言ったら、叱られました。

2026・1・11 小学生の年長組になった時、私の人生に影響を与える出来事がありまし

た。先生からテストの結果が発表され、私が一番だとのことでした。自分は出来る人間ではないと思っていたので嬉しかったです。少しばかり自信を持てるようになりました。

2026・1・24　年長組になると蚊無という地域から集団で登校するのですが、守るのは私たちになります。弟も年少組で入学して来ました。ある時、弟の友達が来て弟さんが泣いていると言うので行ってみると「足が冷たい」とのことだったので私が作った「草履」を履かせました。落ち着いたので自分の持ち

場へ帰りました。貧乏は嫌だなと思ったのは、その時が初めてでした。
2026・2・2 昭和 27 年、中学生になりました。春休みの時、母親から「勉強しなさい」と言われ少し勉強しました。入学時に試験がありましたので、この時の勉強が生きたのか、級長に指名されました。自慢ではなく、この事も自信になりましたね。住まいも駅から 7km 程の「奥」へ引っ越したため、足腰が鍛えられ、マラソン大会では 900 名(男子は 450 名)中二番目となり、陸上部で駅伝大会にも出場出来ました。

2026・2・11　３年生になると成績が良かったからだと思いますが、生徒会長に立候補するよう推薦されました。先生の指導も受け、更には１年生の応援演説も取り付けて、所信表明をしました。弁論大会にも２回出場していましたので、大勢の前で話すことは苦になりませんでした。結果は当選です。このことは私の高校生活を「小さいもの」にしました。生徒会長だったと言う事が足かせになり、自由に行動することが制約されたからです。当時は真面目だったのです。

2026・2・20 高校に入学したときは、142cmでしたので、劣等感を持っていました。それが原因で何をやるにしても、消極的だったので、高校生活がイキイキとしたものには、なりませんでしたね。ただ、卒業する時には158cm になりましたので、少しは自信が持てたかな?? 良いことで言えば二人のポン友が出来たことです。卒業後も三人で飲む機会が度々ありました。

2026・3・1

高校生活の中で、忘れられないのが「ノイローゼ」になったことです。今でいう

「潔癖症」の親玉のような症状になり、25 才まで苦しみました。25 才の時、交通事故にあい、40 日入院しました。その時に頭の上部が無い人などに出会い、自分の悩みは「大したことではない」と思えて、こだわりが薄れました。その後も苦しみはしましたが「共存しよう」という気になれて、何とか普通に過ごせました。

2026・3・7

高校生活も終りに近づき、就職試験をあちこち受けました。2 次試験まで合格し、家庭訪問がありました。駅から 7km のところに自宅がありま

した。訪問者も歩くわけですから疲れたと思います。最終的な判定はバツでした。もっと駅に近いところだったらどうだったかと思うと、少し残念でした。竹原というところで銀行の試験も受けました。そこでは、貯金がどれだけあるか聞かれ、無いと言ったら、それで即不合格でしたね。もともと国家公務員の試験が本命でしたから、ショックではありませんでした。

2026．3・16

国家公務員試験に合格し、無事、郵政省の職員になりました。広島郵政研修所・普通部生となり、一年間、給与を受け取りながら勉強させて貰いました。今、振り返って

みても人生で最高の一年だったと思います。残念なのは母親が脳卒中で倒れたことです。休みの日、安芸津に帰ると兄が迎えに来ていて「おふくろが倒れた」と言いました。家に帰ると布団にもたれて座っていましたので、一安心しました。普通部を無事卒業し、呉市の仁方郵便局に配属になりました。先輩に普通部の卒業生が三人いました。珍しいことです。この郵便局はなぜか優秀な人が多く、後に郵政大学や外国語訓錬生を輩出しています。

2026・3・25

21才の時、全逓信労働組合から中国ブロックの討論集会があるので「行って貰いたい」との要請があり、出席しました。皆しっかりしていて感

心しました。帰った後、広島県青年部の委員会があり、中ブロに行ったのだから「常任委員」をやるように言われました。仁方の先輩にも相談し、引き受けました。これが私の組合役員の始まりでした。支部改編というものがあり、青年部も改編することになりました。この段取りを常任委員との立場から責任者として、行うことになったのが運のツキですね。

2026・4・5

3 年間、青年部の役員をやりましたが、一念発起して「中央大学」の通信課程に入学し、スクーリングにも

2 年間参加しました。2 年目には、興味半分で新宿の「キャバレー・リド」のボーイをしました。
丸々勤めましたので、褒められましたね。 25 才になった時、支部の青年部長や県の常任委員になったのを機に通信教育から撤退しました。34 単位は取得していたので、少し残念でしたが。それからは全逓の活動に注力し、支部の書記長を経て県本部の執
行委員に選ばれ、専従生活が始まります。

2026・4・20

5 年経った時、法律の改正により専従は 5 年と定められ、職場に帰るか、離職して専従役員を続けるかの選択を迫られました。迷いましたが離職することを選択しました。今、思えばその選択はどうだったのか疑問を感じますが、若かったのでしょうね。今は専従期間の制限もなくなりました。教宣担当を 7 年、交渉担当を 2 年勤めました。その時、このままで良いのかとの疑問を持ちました。

2026・4・27

9 年間は、それなりに楽しくもあり、やりがいもあったのですが、な

んか物足りないものを感じていました。なので、三役の人に「10 年間今のままでやるのは難しいと思う」旨伝えました。次の年には書記長になりました。その後に私の苦しい役員生活が始まります。

2026・5・2　　広島

中央支部の支部長が全国大会で発言しました。広島からはどの大会も 30 名以上が参加していたのですが、その支部長は「広島」が発言しないのを寂しく思っていたそうです。それで「業を煮やして」自らが発言したとのことでした。確かにその支部長の言う通りです。参加

者の皆さんも寂しかったそうです。そこで、全国大会では「広島の代議員の誰かが必ず発言する」という状況を作る必要を感じ、自分が先頭に立って積極的に発言することにしました。

2026・5・10　そうしたことが定着したのは良いのですが、困ったこともあります。広島の方針として「決めたことは守る」というものがありました。全逓の場合は都市部は殆どそうでしたが、新左翼の潮流と思えるグループ、社会党左派を自任するグループ、日本共産

党員等が一定程度存在し、郵政省が提案してくる「深夜勤」「実損回復」（特別昇給制度とセット）、「時間短縮」、「減額措置制度」などは、中々まとまらなくて採決で決めることが多くありましたね。　採決で決着しないものもあり　、いわゆる保留です。
　そうした場合は「決めたことは守る」の精神により代議員が勝手に発言できないと言う事でもありますので、困ったなあと思うこともありましたね。

2026・5・17　　全体をまとめるために、例えば支部長会議をして、一次会は経費で落とせますが

二次会になると、そうは行きません。自分のポケットマネーで支払いました。お陰で退職金の前借をしていましたので 、退職した時、相当引かれました。そんな濃いい付き合いをしてきましたので、退職後も多くの仲間と楽しく過ごすことが出来ました。その分、家族には迷惑をかけたと反省しています。

2026・5・23

46 才の時に副委員長になりました。物凄い解放感を味わいました。書記長の 9 年間は相当、きつかったと言う事でしょうね。交渉担当になり、職場の皆さんとの接触も増え、楽し

かったです。4 年間勤めた後、中国地方本部の副委員長に転出しました。交渉部長でもあり、結構忙しかったですね。残念ながら大病を患いました。朝から凄い腹痛に襲われ、立っても座っても寝転んでも激痛は収まりませんでした。夕方になり舟入の「救急病院」に行って診察を受けました。「食中毒」ということで薬を貰って帰りましたが、

激痛は収まらず、もう一度同じ病院に行きました。医者が変わっておられ、検査の結果「大変なことになっている」急性膵炎だと診断され「即入院」になりました。翌日、日赤病

院に転院し、30 日間の入院を余儀なくされました。 15 日間は水も一滴も飲めない状態でしたが、栄養補給剤の点滴により、喉が渇くと言う事は有りませんでした。

2026・6・1　無事に退院し、全国大会に出席することが出来ました。フラフラでしたが・・2 年間勤めた後、地区本部の委員長になりました。この時も広島中央支部の執行権を停止する事態になり、苦労しました。確信犯的に対応されたので、前回と違い、全逓脱退という動きになりました。臨時支部委員会を開催し、首謀者の除名申請を決め、

役員選出を実施して、何とか体制を整えることが出来ました。当初は大量の脱退者が出るのではないかと心配されていましたが、有力な人物の奮闘もあり、50 名強の脱退にとどめることが出来ました。

2026・6・8 参議院選挙があり、補欠選挙を戦ったＹさんを候補者として推薦しました。社会党公認では当選は難しいと考えていたので「無所属」で戦うしかないと思い、色々対応しましたが「無所属」では推薦できないと社会党が言うので困りました。最終的には「社会党公認」で立候補しましたが票が伸び

ず当選できませんでした。今では、「立候補すべきではなかった」と思いますね。

2026・6・22 地区本部(県本部)の委員長を４年務めた後、全逓共済生協の中国地方部長に転出しました。広島が共済全般が弱かったため「大変ですね」とか
「大丈夫ですか」とかの激励(本音は皮肉)を受けました。私としては意地でも答えを出さなければと思い頑張りました。「広島」を伸ばせば中国も伸びることとなりますので営業活動に徹しました。お陰で皆さんの協力もあり、最終的には広島を大

きく伸ばすことが出来ました。全国的にも高く評価され、オーストラリアにも行かせて貰えましたね。4年務めさせて貰いましたが、私の人生の中でも、普通部時代に負けず劣らず「幸せ」な時間でした。

2026・6・28 当時は60才が定年でしたので8月
31日をもって退職しました。６２才の時、妻の出身地でもあり、私も結婚当時9ケ月住んでいました江田島市の沖美町に単身で住みました。結果として2009年の9月まで居ました。船舶免許を持っていましたので中古の漁船を購入し、釣りに出かけ

て楽しみました。落ち着いたころ呉方面の友達を呼んで麻雀をしました。一泊二日の徹夜麻雀ですから疲れましたし、大体負けるので残念なことが結構ありました。途中からは5=6 名となりましたので交代で打つので楽になりましたね。

2026・7・3

2009 年、二人目の孫が生まれ、チビ太郎の面倒を見るのが困難になったとのことで「帰って欲しい」と妻が言うので広島に帰りました。ボロ舟の始末に困っていたところ、友達の息子が「欲しい」と言うので譲ることにしていましたが、友達の住所が

竹原で「係留場所」が無いことが判り、譲ることは断念しました。仕方なしに「oo モーターース」に 15 万円払って引き取って貰いました。15 万円というのは「船の砕き賃」です。中古の舟には苦労しました。修理費だけでも相当支払いましたね。

2026・7・8

広島に帰ってからは麻雀をどうするか相談した結果、安浦のポートピアに麻雀室があるとのことで数年間は、そこで麻雀を楽しみました。メンバーも年齢がかさみ、亡くなる友達が 2 名出てしまいました。その他のメンバーも体力が弱り、麻雀の会

も自然消滅しました。今はメンバーは違いますが１ケ月に一度薬研堀で続けています。

体調が良くなりますと昔の友達のことが気になって、千葉、愛知、大阪、兵庫の旧友に電話連絡しました。千葉、愛知、兵庫の友達は亡くなっていました。辛うじて大阪の友達２人が頑張っていました。それでも遠くへは出られないとのことで残念な話でした。私は100才を目指していますが亡くなった友達の分まで頑張るつもりです。

2026・7・12 手詰まりになりましたので、しばらく考える時間をいただきます。

2026・7・22 折角なので、もう少し続けてみます。今後は「スポット」として時系列にこだわらず「場面」を発信します。母親が脳卒中で倒れ、半身不随になったことは前にも述べました。今思えば、なかなかの冒険でしたが母親を「長門の俵山温泉」に電車とバスを乗り継いで連れて行きました。その温泉は「自炊できる」所なので、母親のことは皆さんにお願いして帰りました。次の年も行くつもりで積み立て

を行い準備していましたが、母親が2度目の脳卒中になり、中止しました。二人とも残念がりましたがやむを得ません。良い成績を取ることでは親孝行出来ましたが、他には「この事」ぐらいしか親孝行はしていませんね。

2026・7。26 空白の20日間。ともいえる時がありました。高校を卒業し、郵政省への就職も決まり、後は研修所へ入るのを待つだけという、幸せな期間でしたね。山(樹木)を買い、薪づくりに精を出しました。母親も一緒でした。勉強しなくてよい

という解放感と社会に出るという期待感で一杯でした。その後の人生を考えると貴重な時間でしたね。普通部の一年間、共済の地方部長をした四年間に匹敵する楽しい時間でした。

2026・7・31

20才の時、人生に悩み一人で旅行をしました。靄がかかったようで、スッキリしない毎日でした。小豆島に渡り、一泊した後、鳴門に行き一泊して、淡路島に向かいました。淡路島を縦断し明石で映画を見て帰りました。どういう事もない旅行でしたが立ち直れましたね。

2026・8・14

50才で全逓中国地方本部の副委員長をしている時、大病を患いました。朝から凄い腹痛がして苦しんだのですが、夕方になっても収まらないので救急病院の「舟入病院」に行きました。食中毒だとのことで帰宅しましたが、激痛は収まらず、もう一度舟入病院に行きました。医者が変わっており検査の結果「急性膵臓炎」と診断され、入院しました。点滴を続け朝4時頃になって、痛みを我慢できる情況になりました。40日間入院しましたが命拾いをしましたね。

2026.・8・22

全国の仲間のうち、全逓で頑張った人たちで「78 会」を作って、退職後のことですが、(毎年 1 回、一泊二日)で旅行をしました。13 回までは覚えています。78 までは頑張ろうという会なのですが全員が 78 になる前に、解散しました。最初の頃は私が世話をしていましたが、途中から持ち回りで世話をすることになり、鳴門、淡路島、大阪、神戸、伊勢志摩、富田林、伊豆等などをめぐり、大変楽しい思い出が出来ました。先日、元メンバーに連絡したところ 3 名の人が亡くなっていることが判り、ショックを受けました。

2026・8・29

62 才から沖美町に住んでいたことは先述の通りですが、反省点も多いです。まず、舟のことですが、慌てて買ってしまったことです。中古で 47 万円でしたが 6 ケ月でエンジンが壊れ、中古ですが入れ替えました。50 万掛かりました。舟を捨てるのに未練があり、修理で済ませたことは今は後悔しています。最後まで何とか使用できましたが、舟を買い替えた方が良かったと思いますね。

2026・9・5

飲み会ばかり作っていると思われるかもしれませんが、呉方面、竹原、

大崎島、能美島などで組織している全逓の「芸南支部」の青年部で活動していた仲間とは、現役のころから、年に一回、正月に集まっていました。多い時には 12 名ばかりのグループでした。退職してからも集まっていました。飲み会だけではなく、大久野島でキャンプもしましたよ。年を追うごとに亡くなる人や病気になる人が増え、数年前に自然消滅しました。今は元気な人が少ないですね。残念です。

2026・9・10

高校時代、兄と同じ忠海という高校でした。全校集会があり、兄が歌を

歌いました。多分「高原」の名がつく題名だったと記憶していますが、途中で歌詞をド忘れして、詰まってしまいました。そのことをからかうと、割り木をもって追いかけられました。兄にとっては思い出したくないようですね。

2026・9・16

5 才まで大崎下島の大浜に住んでいたことは前に述べましたが、15 年後に祖母の葬儀に参列するため、大浜に行きました。周りを散歩したのですが、景色が変わっていました。変わったのではなく、幼児の時には大きく見えたものが、小さく見えたこ

とが景色の変化に見えたのでしょう。良くあることですよね。

2026・9・21

私の人生の中で、幸せを感じたのは、郵政研修所の一年、共済地方部長時代の 4 年だと言う事は、前に述べましたが現在も同じだと思います。人生の終焉を迎えようとしています今が幸せだと言う事は喜ばしいことですね。100 才を目指していますが、ニュースでは著名人の訃報が伝えられています。90 才から 95 才までの方が多いいですね。中々困難な道ですが、頑張るつもりです。

2026・9・29

私が幼児のころ、癇癪が激しくて医者に通っていました。母親が付きそっていましたが、私が河口に転落してしまいました。母は着の身着のままで飛び込んで私を助けました。浅瀬だっので良かったです。私が立派な??人間に成れたのも父や母のお陰なので感謝しています。脳溢血で療養している時、手伝ったのも恩を感じていたからです。

2026・10・6